

中国辺境の山岳地帯に暮らす少数民族の生活環境と歌謡文化

板 垣 俊 一

始めに断っておきたいと思いますが、ここでのお話しは中国辺境の山岳地帯に暮らす少数民族の生活のほんの一端を紹介するものに過ぎません。そもそも異文化の生活を語るためには、その地に少なくとも一年間は住んで、肌身で彼らの生活を体験しなければなりません。一年間というのは人間の生活サイクルがそうになっているからです。今日は、私に関心を持って訪れている中国辺境の民衆歌謡を中心に、ごく表面的な少数民族の文化の一面を紹介することにします。

I 歌の文化を訪ねて

○日本古代の〈歌垣〉と中国の〈対歌〉

〈歌垣〉というのは簡単に言えば、春や秋の特定の日に聖なる場所と考えられている山地などに多くの男女が集まって恋歌を掛け合う行事のことです。日本の古代、つまりヤマト民族にも行なわれていて、万葉集の歌の母胎にもなっています。中国南部の少数民族には、今日までこれと類似した風習が行なわれています。これらは民衆の歌謡です。ちなみに「歌謡」とは、文字によらない口頭の歌のことで、広大な“文字の国”中国にも、民間にはそうした歌謡文化が今もあるのです。歌謡には、いわゆる民謡のように伝承される歌もあれば、即興的にその場で歌詞が創作される歌もあります。また、中国南部の少数民族で行なわれる歌垣の場で、男女が恋歌を歌い交わす在り方は〈対歌〉と呼ばれています。

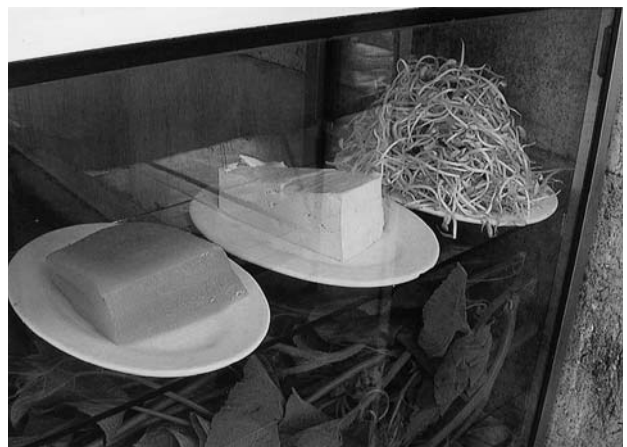
○甘肅省南部岷県への旅

—中国西北部における歌謡文化の存在—

私は、今年（2008）の七月に、甘肅省の南部へ民衆歌謡の調査に行ってきました。なぜそんな所へ行ったかという、この地で行なわれている「花儿会」を取材するためです。

これまで私の所属しているアジアの文化に関する学会では、中国南部の雲南省あたりに大きな関心がありました。なぜなら古代ヤマト民族の歌垣がそこに現代まで生きているからです。〈対歌〉という恋歌の掛け合いが、

雲南省あるいは広西チワン族自治区にかけて行なわれています。またこのあたりは照葉樹林文化と呼ばれ、餅など日本人の食文化との共通性も指摘されています。下の写真を見てください。雲南省の昆明から西へ向かう高速道路のサービスエリアで撮った写真です。食堂の陳列棚にあった食材ですが、蒟蒻、豆腐、もやしです。これらは我々になじみの深い伝統的な食べ物ではないでしょうか。こうした地域に、古代ヤマトに類似した歌の文化があっても本当に不思議ではありません。



写真A 蒟蒻・豆腐・もやし（2002.08）

しかし、私が疑問だったのは、このような歌の文化が中国のほかの地域には果たしてないのだろうかという点です。だいたい見当を付けて行った場所が、中国西北の西安の西、甘肅省南部の岷県という所です。そこには、現在ほとんど日本に紹介されていない歌垣がありました。花儿会です。

Ⅱ 花儿（恋歌）を掛け合う人々 —中国西北部—

○甘肅省南部の〈花儿^{ホワール}〉という歌謡

花儿という歌謡は、漢語の方言で歌われる歌です。甘肅省から青海省そして寧夏回族自治区南部や新疆ウイグル自治区の一部まで、かなり広い範囲に分布しているので、地方によって違いがあります。古くからの伝承歌詞の花儿はおもに回族がよく歌っています。西安市の清真大寺で白い帽子を被ってお祈りの会場を作っていた回族

の壮年男性に、花儿が歌えるかと聞いてみたら、ラジオで聞いているから歌えるといって実際に歌ってくれました。花儿の歌詞には伝承歌もあれば即興歌もあります。

○花儿は特定の会場に集まって歌い合う民衆の歌

甘肅省には黄河が流れています。蘭州市の西には、観光地にもなっている劉家峡ダムという大きな黄河のダムがあります。このダムに、洮河という大きな支流が流れ込んでいますが、この流域に分布しているのが即興的な花儿です。それには神仏に祈る歌もありますが、野外で見知らぬ男女がお互いに恋歌を掛け合う形式の歌が多くあります。人々が集って歌がうたわれるのは、竜神廟などが建っている聖地で、そこでの行事を「花儿会」と言っています。



写真B マーイエルン 馬燁倫の花儿会では対唱者を囲む人々 (2008.07)

○漢語で歌う八つの民族共通の歌謡

花儿を歌う人々は、漢族や回族のほかにはチベット族、トゥー族、サラール族、トンシャン族など合わせて八民族だと言われています。この地は、古くから中国王朝を脅かした西域の異民族と境を接する所で、今もこのように複数の少数民族が住んでいます。興味深いのは、彼らが花儿を歌うときには、自分の民族言語ではなく、すべて漢語だということです。それぞれ民族が違う人でも、花儿はお互いに歌い合うことができるのです。花儿とは、そんな共通の歌言葉です。(漢語の使用は漢族の人口比の多さからです。)

○対唱するのは既婚者たち

歌垣という行事は、一般的には未婚既婚を問わず参加できる行事ですが、若者たちにとっては歌を掛け合うことを通して自分の結婚相手を見つけるという側面がありました。茨城県の筑波山で行なわれた古代ヤマトの歌垣もそうだったと思われます。しかし、甘肅省の花儿会の場合は、対唱に参加できるのは既婚者だけです。この点が、広西・雲南地方の対歌と違っていています。彼らは恋歌を歌うことを楽しんでいるのであり、決して不倫のために集まっているのではないのですが、端から見ればあま

り良い行為とは考えられていません。花儿会は、神に祈るための行事でもありますから、何千人もの人々が参加しますが、そのとき異性と花儿を歌うことは、とりわけ女性たちの場合、家族には内緒です。ではなぜそんな事が行なわれるのでしょうか。それは、男女の睦み合いが自然の豊作への期待と祈りだった古い信仰がそこに息づいているからです。

○厳しい自然環境

花儿会が行なわれる地方は、雨が少なく自然条件の厳しい土地です。そのような厳しい自然環境の中で、人々は竜神に雨を乞い、子孫の繁栄を祈って暮らしてきました。それが花儿会という行事の主要な目的だったと考えられます。

甘肅省の南部は畑作と家畜の飼育を中心とする農業地帯で、雨が少なく気温が低く、稲作は行なうことができません。穀物としては麦類のようです。ここが照葉樹林帯でないことは言うまでもありません。

Ⅲ 中国南部の山岳地帯に暮らす人々

—チワン族・トン族の歌謡文化と木造建築—

○チワン族の行事「三月三」

男女で恋歌を掛け合う文化は、中国南部の少数民族にもあります。すでにお話ししましたように、ある特定の日に広い野外で男女が恋歌を掛け合う行事は、中国南部にも多くあります。景勝地の桂林で知られる広西チワン族自治区では、旧暦の三月三日に歌会が開催され、チワン族の未婚の男女が大勢参加して結婚相手を選びます。まだ残念ながら日程が合わず私は実際に取材していませんが、昨年(2007)四月に予備調査として龍勝各族自治县を訪れたときには、実際に対歌した相手と結婚しているという若い奥さんの話を聞くことができました。

この地のチワン族も山がちな厳しい土地で暮らしています。しかし湿度が高く、かなり山の上でも水田を作ることができます。龍脊地区などは山の頂上まで棚田が開け、美しい景観を作っています(下の写真参照)。稲作を



写真C 龍脊の棚田 (2007.04)

行なっているのです。西北部の甘肅省と比べれば、ずっと緑が豊かですが、景観として美しい棚田も、稲作の労働にとっては厳しいものですし、収量もそれほど豊かではなく見受けられます。その点で、自然条件はやはりここでも厳しいのです。

龍勝各族自治县では、野外に人々が大勢あつまって恋歌を掛け合う行事は、おもにチワン族のもので、この地に暮らすもう一つの少数民族トン族などにはないようです。トン族も恋歌の対唱はしますが、特定の行事に集まることはないと言います。しかし、トン族には優れた音楽文化があります。無伴奏の混声合唱曲に、蟬の鳴き声をまねた代表的な「蟬の歌」があって、すばらしいハーモニーを響かせます。また楽器にも、三味線に似ているが、三弦のほかに四弦または五弦からなる琵琶と呼ばれる撥弦楽器（これには大中小のさらに三種がある）や、その形から牛股琴と呼ばれる擦弦楽器、さらに竹を利用して作った芦笙という管楽器などがあります。



写真D トン族の叙事詩に用いる五弦琵琶（2007.04）

○風雨橋と鼓楼、先端宙吊り柱様式—独特の木造建築物—
広西チワン族自治区は雲南省南部などとともに照葉樹林帯にあたります。日本でもっとも一般的に見られる照葉樹は椿（所によっては茶樹でしょう）ですが、庭木として植えられている香りの良い花を咲かせる木犀も、堅いすべすべした葉をもつ常緑樹で照葉樹です。木犀は中国語で桂花ともいいますが、景勝地「桂林」の地名にも用いられているほど、広西地方によく生えている照葉樹です。少し冷える春先の山地の朝、山々には霧が濃くかかっていました。湿度もあって、建材に適した杉の木も結構生えています。龍脊地区あたりの人々は、この杉を使って建物を造ります。中国の多くの土地では煉瓦や土壁で家を造りますが、この地方の家屋は木造建築を特徴としています。棚田の田んぼといい、木造家屋と言い、日本文化との近さを感じます。

木造建築には伝統的な技術が見られます。最も有名な

のがトン族の風雨橋と鼓楼です。集落の共同的な建物で、神社仏閣のような宗教施設ではありませんが、人々の精神生活にとって欠かせない建造物となっているようです。風雨橋はチワン族の村にもありますが、村の入口の谷川に架けられる屋根付きの立派な橋で、そこを渡って村に入ります。人々は、雨風の時には野良仕事を休んで、このベンチに腰を掛けて過ごすことから、風雨橋と名付けられたとのこと。また、鼓楼は高く聳える塔で、なかに太鼓を据え付けます。村の集会などが行なわれるとのこと。古老が村の古い伝承を語るのもここだと言います。



写真E トン族銀水村の風雨橋（2007.04）

山岳地帯に暮らす少数民族の家が多くは、立地の悪い山の斜面に建てられています。龍脊地区のチワン族の木造家屋もその多くが急峻な斜面に建てられています。三階建ての、三、四間に七、八間もあるような家が見受けられますが、崖になっている片側の柱に独特の意匠がこらされます。写真のように、先端の柱を宙吊りにするのです。



写真F 先端宙吊り柱様式の構造（2007.04）

また、この地の人々が、伝統的に暖を取ったり食事の用意をする場所は、囲炉裏です。チワン族の家庭で食事もご馳走になりましたが、調理場は懐かしい囲炉裏でした。囲炉裏の上には「火棚」もありました。そこで干し肉を燻製させたり、なにかを乾燥させることもできます。日本の昔の家屋にもあったものです。



写真G チワン族金竹村の家庭の囲炉裏 (2007.04)

Ⅳ 雲南省の歌謡文化と白族の信仰

○白族の対歌

白族の場合、既婚未婚を問わないが、現在では歌を掛け合うのは既婚者が多い。

○寺院・霊廟などの聖域で行なわれる歌会

事例：大理市北部石宝山（仏教寺院）の歌会

事例：ツービー湖の龍王廟歌会

歌詞資料：白族の対歌で歌われる内容例（日本語訳）

男〔大意〕 石宝山では歌の掛け合いがあります。また寺院の参拝もあります。私は仏様にお詣りに来たのではなく、ただ花を採りに来たのです。花を採るならきれいな牡丹の花が欲しいです。どんな苦労を重ねても私は最もきれいな花を採ろうと思います。いくつも山を越えて今日やっとあなたのような花を採ることができました。今夜はとても眠れません。

女〔大意〕 私は恋の相手を探してもなくあなたを見付けました。あなたのような人がいいです。あなたとならばとても良く歌えると思います。でも、あなたと歌を交わした後で、人にあれこれ言われるのが怖いのです。もし、あなたに真心があれば、私は喜んでついて行きます。

男〔大意〕 石宝山にはきれいな花がたくさん咲いています。私の本心を言いましょう。この花を採ろうかと思ったら、別の花がもっと美しく見えます。本当のところ、私はあなたが二人のどちらも好きです。

女〔大意〕 二つの花はどちらもきれいだと思います。でも、あなたはその中の一つを選ばなければなりません。この花もあの花も採るというようなことをしてはいけません。

※二人づれの女性の一人と一人の男性が歌い合っている場面。

○自然環境 —大理市平野部は豊かな水田地帯、
山岳地帯は保水の悪い厳しい自然—

○民家の風習

—白壁に水墨画、家の中庭正面の入口には照壁—

○白族の信仰

白族には本主廟という神社のような建物があって、信心深い人々の心の拠り所となっている。祭られているのは人間の形をした様々な神像である。人々は病氣平癒をはじめ、たとえば息子の大学受験の合格祈願のような生活上の様々なことを祈っている。そしてその願い事が成就するとお礼参りも行なう。



写真H 大理市の本主廟にあった魔除けの照壁

（建物の真っ正面には入口を付けない 2006.08）



写真I 大理市の本主廟での神々への祈りと供物 (2006)

（この項の詳細については拙稿「少数民族白族の食文化・歌文化 —中国雲南紀行—」『新潟の生活文化』No10、2004を参照して下さい。）

Ⅴ 雲南省北部の山岳地帯、大峡谷に暮らす人々

○怒江の峡谷の少数民族

—リス族、怒族、チベット族、トールン族—

○自然環境

—樹木の少ない急斜面の痩せた土地、雨季と乾季—

禁じられている焼畑農業

斜面の土地利用…目立つのはトウモロコシ畑

○自然素材の生活利用

—薄く剥落する岩盤を石盤として利用—

家の瓦、焼き物の板

(この項については拙稿「怒江大峡谷の少数民族と生活文化 —中国雲南紀行(2)—」『新潟の生活文化』No11、2005を参照して下さい。)


Ⅵ おわりに

このような厳しい環境のなかでも、人々には音楽があり、踊りがあり、子どもたちの笑顔があります。また、辺境地帯に残る幾つかの歌謡文化は、豊穡への祈りや子宝祈願と結び付いています。その点で、生きることと密接な関係を持っていることが分かります。

※当日の講演内容を文章化するにあたっては多少の改変を施しました。また、ここに紹介した甘肅省南部岷県の花児会について、さらに知りたい方は拙稿「中国甘肅省の民衆歌謡“洮岷花儿(とうみんホアール)”について —東アジアの歌謡文化再考—」(『県立新潟女子短期大学研究紀要』第46集、2009.03)をご覧ください。



参考地図

 がここに採り上げている地域です